

小単元の指導・評価計画

単元の導入（第1単元オリエンテーション）

1時間／P.6～7

指導計画

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	何があるかな。どのような人がいるかな。何をしているのかな。 (1時間)	○教科書のイラストを見ながら、まちの様子について知っていることや気づいたこと、疑問に思ったことを出し合う。 ・一軒家、マンション、デパート、商店街などいろいろな建物がある。 ・田、畑、工場もある。 ・鉄道の駅には、たくさんの人が集まっている。 ・色々な種類の車が走っている。 ・さまざまな人が、さまざまなことをしている。 単元のめあて わたしたちのまちは、どのような様子なのでしょう。	◆キャラクターのせりふから、働いている人の姿に注目させる。 ◆QRコンテンツ「見てみようまちの様子」では、教科書のイラストをICT端末上で拡大して見ることが出来る。気になった箇所を拡大させ、どのようなところが気になったのか出し合わせる。	[態度] ノートの記述内容や発言内容から、「イラストからまちの建物の様子、道路や駅の様子、人々の様子などを読み取って、まちの様子に気づき、自分たちのまちへの関心を高めているか」を評価する。

目標

身近な地域の様子について、地形や土地利用、交通の広がり、主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などに着目して、観察・調査したり地図などの資料で調べたりして、白地図などにまとめることで学校のまわりの様子を捉え、場所による違いを考え、表現することを通して、身近な地域の様子を理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①身近な地域の地形や土地利用、交通の広がり、主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などについて観察・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、身近な地域の様子を理解している。	①身近な地域の地形や土地利用、交通の広がり、主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などに着目して、問いを見出し、身近な地域の様子について考え、表現している。	①身近な地域の様子について、予想したり、主体的に調べようとしていたりしている。
②調べたことを白地図や文などにまとめ、身近な地域の様子を大まかに理解している。	②身近な地域の様子場所による違いを考え、適切に表現している。	

本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価基準と評価方法
①わたしたちのお気に入りの場所 P. 8～9 自分の家や学校の近くにあるお気に入りの場所を、しょうかいし合しましょう。 (1 時間)	○自分のお気に入りの場所を紹介し合う。 ・大濠公園は広い公園で、よく遊びに行く。 ・商店街には、お菓子を売っているお店がある。 ○それぞれのお気に入りの場所の様子について話し合う。 ・近くのお寺には、大きくて立派な塔がある。 ・地下鉄に乗ると、空港まで行ける。 学校のまわりには、公園や寺、駅や郵便局など、さまざまな場所がある。①	◆生活科の学習で行った場所や日常生活で利用している場所など、自由に話し合わせる。 ◆絵地図などをもとに、それぞれの場所が学校から見るとどの方位に見えるかを予想させ、次時の活動へつなげる。	[態度①] ノートの記述内容や発言内容から、「身近な地域の様子について、予想したり、主体的に調べようとしていたりしているか」を評価する。
②高いところから見た学校のまわりの様子 P. 10～11 高いところから、学校のまわりの様子をかんさつしてみました。 (1 時間)	○白地図を見て、自分たちの知っている場所について話し合う。 ・地下鉄の駅は、学校の南側の大きな通りにあると思う。 ・お寺があるのは西の方だと思う。 ○方位ごとに様子を観察し、気づいたことを話し合う。 ・学校の西側には、お寺の塔が見える。 ・学校の南側は、駅があるはずだけどマンションが多くあって、見えないね。 学校のまわりは、南に公園があったり、西にお寺があったり、方位によってある物が違う。②	◆方位磁針や QR コンテツ「四方位・八方位」を使って、方位の概念を定着させ、空間的な見方ができるようにする。 ◆方位ごとに見えるものに違いがあるかどうかを意識させる。	[思判表①] ノートの記述内容や発言内容から、「地形や土地利用、交通の広がり、主な公共施設の場所、古くから残る建造物などに着目し、学校のまわりの様子について考えたことを表現しているか」を評価する。
③学校のまわりのたんけん P. 12～13 学校のまわりをたんけんしましょう。 (1 時間)	○学校のまわりの様子について予想し、探検の計画を立てる。 ・駅のある通りは、大きな建物やお店が多いと思う。 ・車の量や人の多さを比べてみたい。 ○学校のまわりを探検して、気づいたことを白地図などに書く。 ・大きな神社に向かって、急な坂道があった。 ・ふくふくプラザという公共施設があった。 学校の南側には、地下鉄の駅や公共施設がある。西側には、お寺やお店などの古い建物がある。③	◆次の小単元「市の様子」の学習につなげることを意識して、予想を視点ごとに分類する。 ◆ICT 端末を使って写真を撮らせ、白地図にまとめる活動で活用させてもよい。	[知技①] 発言内容や白地図の記述内容から、「地形や土地利用、交通の広がり、主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などについて観察・調査して、必要な情報を集め、身近な地域の様子を理解しているか」を評価する。

本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
④たんけんしたことを白地図に書きこもう P. 14～15 学校のまわりの様子について、気づいたことを白地図に書きこんで話し合しましょう。 (1 時間)	○探検の時に気づいたことを、白地図にまとめる。 ・学校の西側は、家が多い。 ・南側の大きな通りは、車がたくさん走っていて、信号が多かった。 ○完成した地図を見て、学校のまわりの様子について話し合う。 ・駅のまわりや商店街の近くは、人が多い。 ・大きな通りのそばには、お店が多い。 南側の大きな道路沿いには、地下鉄の駅がありバスも多く通っている。まわりには、マンションなどの大きな建物が多い。西側は、道路の幅が狭く、一軒家が多い。 ④	◆地下鉄に乗って行ける場所などを発言させ、空間的な広がりを意識させる。 ◆地図帳やインターネット上の地図を提示し、完成した地図と比べさせる。その際、地図記号についても触れるようにする。	【知技②】 白地図・ノートの記述内容や発言内容から、「調べたことを白地図や文などにまとめ、身近な地域の様子を大まかに理解しているか」を評価する。
⑤学校のまわりの様子をまとめよう P. 16～17 学校のまわりの様子について、考えたことを話し合いました。 (1 時間)	○コースによる土地や交通の様子の違いについて話し合う。 ・南側の大通りコースは、大きな建物が多く、大きな公共施設があった。 ・西側のお寺・商店街コースは、幅の細い道が多く、静かだった。 ○学習したことをもとに、学校のまわりの様子について説明する。 ・学校のまわりでも、場所によって様子が違いがある。 学校のまわりには、住宅がたくさんある。南側にある幅の広い道路沿いには、公共施設などの大きな建物が多い。西側には、古くからあるお寺が集まっている。学校のまわりの様子は、場所によって違いがある。 ⑤	◆比較するという学習活動が、特色を考える時に有効であることを実感させる。 ◆学校のまわりよりも広い範囲が見える地図を提示し、次の小単元「市の様子」に向けて興味関心を高める。	【思判表②】 ノートの記述内容や発言内容から、「身近な地域の様子の場所による違いを考え、適切に表現しているか」を評価する。

1－①市の様子

10 時間／P. 20～39

目標

市の様子について、都道府県内における市の位置、市の地形や土地利用、交通の広がり、市役所など主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などに着目して、観察・調査したり地図などの資料を使ったりして調べ、まとめることで市の様子を捉え、場所による違いを考え、表現することを通して、自分たちの市の様子を大まかに理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①都道府県内における市の位置、市の地形や土地利用、交通の広がり、主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などについて観察・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、市の様子を理解している。	①都道府県内における市の位置、市の地形や土地利用、交通の広がり、主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などに着目して、問いを見いだし、市の様子について考え、表現している。	①市の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを白地図や文などにまとめ、市の様子を理解している。	②市の位置、市の地形や土地利用、交通の広がり、主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などを比較・関連づけ、総合などして市の場所による違いを考え、適切に表現している。	

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①空から見て P. 20～21 空から市の様子をとった写真や地図帳を見て、市の位置や気づいたことについて話し合しましょう。 (1 時間)	○航空写真を見て、気づいたことや、市の施設や様子でわかっていることを発表し合う。 ・ビルが多い。 ・川が流れている。 ・山や島がある。・道路がある。 ○地図帳を使って福岡市の場所を探し、福岡市の位置や範囲などを話し合う。 ・福岡市は、福岡県の西側にある。 ・小呂島も福岡市。 福岡市は福岡県の西に位置し、高い建物が集まる場所や島、山などがある。①	◆市の様子を概観し、特徴ある地域の様子に気づかせる。 ◆P. 21「まなび方コーナー」を活用し、福岡市の位置を地図帳から探し出すようにする。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を読み取り、市の位置や範囲を理解しているか」を評価する。
	②市の写真や地図を見て P. 22～23 わたしたちの市の様子について話し合い、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○市内の様子の写真を見て、行ったことのある場所を紹介し合う。 ・油山の牧場は、学校からみて南にあり、緑が多く高いところにあったな。 ・博多港は、学校の北東にあり、大きな船がとまっていたよ。 ○市の様子について、疑問に思うことを発表し合い、学習問題をつくる。 ・田畑はどのあたりに多いのかな。 ・市役所や区役所では、どのようなことをしているのかな。 学習問題 わたしたちの市には、どのような場所があり、それぞれどのような様子なのでしょうか。	◆紹介した場所が、自分たちの学校からみて、どの方位にあるのか QR コンテンツ「四方位・八方位」なども活用し確認させる。 ◆福岡市が7つの区から構成されていることを確認させる。	[思判表①] ノートの記述内容や発言内容から、「市の位置、地形や土地利用、交通の広がり、公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などに着目して、問いを見出しているか」を評価する。
	③学習の進め方 P. 24～25 学習問題をつくり、学習の進め方をかくにんしよう。 (1 時間)	○単元の「つかむ→調べる→まとめる→いかす」という学習の流れを確認する。 学習問題について、予想を立て、実際に見学したり、インターネットやガイドブック、写真や地図、市役所への手紙などで調査したりして、市の様子を調べる計画を立てる。 <調べること> ・土地の高さや広がり ・土地の使われ方 ・交通の様子（電車やバス、船、道路、空港） ・市役所などの公共施設の場所と働き ・古くから残る建物	◆問題解決的な学習の進め方について学ばせる。 ◆今後の社会科学習全般にかかわる基礎的な学びのため、丁寧に指導する。QR コンテンツ「学習の進め方をたしかめよう」を活用してもよい。 ◆内容だけでなく、調べ方やまとめ方も指導する。	[態度①] ノートの記述や学習計画表の内容、発言内容などから、「自分たちが住む市の様子について、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
調 べ る	④市の土地の高さや広がり P. 26～27 福岡市の土地の高さや広がり は、どのように なっているの でしょうか。 (1 時間)	○写真や地図を見て、福岡市にある山や島、川などの地形について発表し合う。 ・脊振山 ・油山 ・能古島 ・那珂川 ○市の土地の高さの違いや平らな土地の広がりについて、地図や写真をもとに考え話し合う。 ・福岡市の土地は、海に面した北側が低く、南側は山があり高い。 ・低く平らな土地は、海側の東と西に広がっている。 福岡市の土地は、海に面した北側が低く、南に向かうほどだんだん土地が高くなっている。平らな土地は、海を囲うように東西に広がっている。 ④	◆市内には山、島、川、海岸など景観が異なる場所があることに気づかせる。 ◆土地の高さの変化や広がり方について、方位を使いながら表現させる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、市の地形について理解しているか」を評価する。
	⑤市の土地の使い方 P. 28～29 福岡市の土地は、どのように使われているの でしょうか。 (1 時間)	○写真や地図をもとに、福岡市の土地の使い方について発表し合う。 ・高い建物 ・家や店 ・工場や倉庫 ・田や畑 ・森林 ○土地の使い方の特色について、地図や写真をもとに考え話し合う。 ・建物が多いところは、低く平らな土地に多い。 ・海岸線がまっすぐな海沿いに工場や倉庫が多い。 福岡市は、海に近い博多区や中央区を中心に大きな建物が集まり、その周りに住宅が広がっている。市の東側には工場が多く、西側には田畑が広がっている。 ⑤	◆写真と土地利用図の凡例や地図記号を確認し、景観と地図をつなげさせたい。 ◆土地の高さと関連させて、土地の使い方の特色を追究させたい。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、市の土地利用について理解しているか」を評価する。
	⑥市の交通の様子 P. 30～31 福岡市の交通は、どのように広がっているの でしょうか。 (1 時間)	○福岡市にある交通機関の種類を調べ発表し合う。 ・福岡市の地下鉄は、大きな建物が集まっているところを通っている。 ・港や空港は、外国や遠いところとつながっている。 ○福岡市の交通機関の特色について、考え話し合う。 ・交通機関は、大きな建物が集まる地域や工場や倉庫の多い地域に多く集まっている。 ・福岡市の交通は、人々の移動や物の輸送に便利だ。 福岡市には、新幹線、鉄道、地下鉄、高速道路などの交通網が広がり、人々の移動や物の輸送に便利である。 ⑥	◆調べる交通機関を分担してもよい。 ◆交通機関の集まるところと広がり方に着目し、交通の特色を追究させたい。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、市の交通の広がりについて理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
まとめる	⑦市の公共しせつ P. 32～33 福岡市の公共しせつはどこにあり、どのようなはたらきをしているのでしょうか。 (1 時間)	○福岡市の公共施設にはどのようなものがあるか調べ発表し合う。 ・市役所や区役所 ・図書館 ・消防署 ・警察署 ・博物館 ・公園など ○市役所の人にインタビューをして、市役所や主な公共施設の意味や役割を聞き取りまとめる。 ・市役所や区役所は、市民の暮らしを支えている。 ・災害時の避難場所も知らせている。 福岡市の中心部には市役所などの公共施設があり、市民の暮らし、教育、健康福祉、観光や産業を支えている。災害時の避難場所も指定している。 ⑦	◆公共施設が身近にあり、様々な施設があることに気づかせたい。 ◆自分や市民とのつながりに着目し、公共施設の意味や役割を追究させたい。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、市の主な公共施設の場所と働きについて理解しているか」を評価する。
	⑧市に古くからのこるたて物 P. 34～35 福岡市にのこる古いたて物は、どこに、どのようなものがあるのでしょうか。 (1 時間)	○福岡市の古くから残る建造物について、位置やいわれを調べ発表し合う。 ・櫛田神社は 1200 年以上の歴史があると伝えられている。 ・中央区にある福岡城跡は、400 年以上前につくられている。 ○福岡市の古くから残る建造物の特色について考え話し合う。 ・歴史のある神社や寺院が多い。 ・博多区や中央区に多く集まっている。 福岡市には、古くから残る神社、寺院、家屋などの建造物や城跡があり、博多区や中央区に多く集まっている。 ⑧	◆市のパンフレットなど、資料を準備しておく。 ◆古くから残る建物がある場所は現在でも人が集まる所であり、大事にされてきたことに気づかせたい。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、学習したことをもとに、市の古くから残る建造物の分布について理解しているか」を評価する。
	⑨市の様子をまとめよう P. 36～37 調べたことをもとに、市の様子をまとめてみましょう。 (1 時間)	○これまでに調べたことをもとに、福岡市にはどのような場所があったか発表し合う。 ・市の低い土地の西側は畑や緑が多かった。 ・博多区や中央区は、大きな建物や古くから残る建物が多かった。 ○発表したことを整理し、白地図にまとめる。 ・福岡市は、海沿いの工場や倉庫の多い場所や土地が多く緑の多い場所など、場所によって違いがある。 ・福岡市は自然が豊かでまちもにぎやかだ。 わたしたちがくらす福岡市は、交通機関や高い建物が集まる場所や、住宅や公共施設の多い場所、海の近くの畑の多い場所などがあり、にぎやかで自然ゆたかな市である。 ⑨	◆場所による違いを意識して発表させたい。 ◆白地図にまとめるときには、場所による違いを色分けして示すとよい。	[知技②] ノートの記述内容や白地図の内容から、「学習したことをもとに白地図にまとめ、福岡市全体の様子や場所による違いを理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
いかす	⑩市をせんでんしよう P. 38～39 学習したことをもとに、市のせんでんポスターをつくりましょう。 (1 時間)	○市の広報誌やガイドマップを見て、気づいたことを発表し合う。 ・住んでいる人にむけた内容と旅行に来た人にむけた内容には違いがある。 ○宣伝文を作成し、写真を選び、ポスターを完成させる。 ・旅行に来た人に、歴史のある福岡城や自然ゆたかな油山の牧場をおすすめしたい。 ・引っ越してくる人には、市役所のことや買い物に便利な場所を伝えたい。 わたしたちは、福岡市のさまざまな場所の違いや特色をくらしや観光などに生かすことができる。 ⑩	◆宣伝ポスターを作成するときには、場所による違いに着目して、宣伝文の作成や写真の選択をさせたい。	【思判表②】 宣伝ポスターの記述内容や発言内容から、「学習したことをもとに、場所ごとの様子を比較したり、地形や土地利用、交通、公共施設、古くから残る建造物の分布や広がりなどを関連付けたりして、市の場所による違いを考え、表現しているか」を評価する。

単元の導入（第2単元オリエンテーション）

1時間／P. 40～41

指導計画

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	まちの人たちの仕事 わたしたちのくらすまちには、どのような仕事をしている人たちがいるのでしょうか。 (1時間)	○まちの働く人について、どのような仕事をしている人がいるか話し合う。 ・市の西側に多い田や畑では、米や野菜をつくっている人たちがいた。 ・市の北側には工場が多かった。働いている人がたくさんいると思う。 ・通学路にあるスーパーマーケットでは、いつもたくさんの人が働いている。 ----- 単元のめあて わたしたちのまちではたらく人の仕事の様子や、仕事とわたしたちの生活とのつながりを調べてみましょう。	◆前単元の学習や、日常生活で出会う人々の仕事に注目させる。	【思判表】 発言内容やノートの記述内容から、「市で働く人たちの様子に着目して、問いを見出しているか」を評価する。

2-① 農家の仕事

目標

地域にみられる農家の仕事について、仕事の種類や産地の分布、仕事の工程などに着目して、見学・調査したり地図などの資料を調べたりして、白地図などにまとめることで生産に携わっている人々の仕事の様子を捉え、地域の人々の生活との関連を考え、表現することを通して、農家の仕事は、地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①農家の仕事の種類や産地の分布、仕事の工程などについて見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、生産の仕事に携わっている人々の仕事の様子を理解している。	①農家の仕事の種類や産地の分布、仕事の工程などに着目して、問いを見いだし、生産に携わっている人々の仕事の様子について考え、表現している。	①地域に見られる生産の仕事について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを宣伝シールや文などにまとめ、生産の仕事は、地域の人々の生活と密接なかかわりをもって行われていることを理解している。	②生産の仕事の様子と地域の人々の生活との関連を考え、適切に表現している。	

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①市でつくられるやさいやくだもの P. 42～43 わたしたちの市では、どのような作物がつくられているのでしょうか。 (1 時間)	○直売所の写真を見て、野菜や果物の種類や産地について話し合う。 ・だいこんやこまつなは福岡市でつくられている。 ・市の西側に畑が広がっていたから、そこでつくられているのかもしれない。 ○地図やグラフを見て、どのような野菜や果物がつくられているのかを調べる。 ・福岡市では、いろいろな野菜や果物がつくられている。 ・いちごは福岡市の西側で多くつくられている。 わたしたちの住む福岡市では、さまざまな野菜や果物がつくられている。①	◆市内でつくられている作物の種類には、場所によってちがいがああるか、資料2と関連させながら話し合わせる。 ◆調べた内容から疑問をもたせ、次時へつなげる。 ◆ぼうグラフの読み取りの際は、「まなび方コーナー」や QR コンテンツを活用する。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を読み取り、市でつくられる主な野菜や果物の生産地の分布や生産額(量)の概要を理解しているか」を評価する。
	②③特産品のあまおう P. 44～45 いちごづくりについて、気づいたことやぎもんに思ったことを話し合い、学習問題をつくりましょう。 (2 時間)	○あまおうづくりについて、知りたいことを出し合い、学習問題をつくる。 ・どうやってこんなにたくさんのあまおうをつくっているのだろう。 ・ビニールハウスは、なぜ必要なのだろう。 学習問題 農家では、特産品のあまおうをつくるために、どのような仕事をしているのでしょうか。	◆あまおうについてわからないこと、不思議に思うことを自由に話し合わせる。	[思判表①] ノートの記述内容や発言内容から、「あまおうづくりについて気づいたことや疑問に思ったことをもとに、農家の仕事について、問いを見いだしているか」を評価する。
		○学習問題について予想を考え、学習計画を立てる。 ・働く人の様子を見てくる。 ・あまおうをつくるために気をつけていることを聞いてくる。	◆P. 57 の「まなび方コーナー」を活用し、見学カードを作成させる。QR コンテンツ「農家の仕事見学カード」を活用してもよい。	[態度①] 見学カードの記述内容や発言内容から、「あまおうをつくる農家の仕事について、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
調 べ る	④⑤あまおうづく りの1年間 P. 46～47 農家では、1 年間どのように 仕事をしている のでしょうか。 (2 時間)	○学習計画の「調べること」をもとに、畑 の様子を見学する。 ・あまおうをつくるためにいろいろな仕事 があり、季節によって作業が違う。 ・たくさんのあまおうをつくれるように、 計画をしっかりと立てている。 農家では、季節の変化に合わせた工夫を しながら、1年間計画的にあまおうをつ くっている。 ④⑤	◆時期によっ ては、複数の仕事 を同時に行って いることに着目 させる。 ◆わかったことや 疑問に思ったこ とを、メモだけ でなく写真など に記録し、学校 にもどってから まとめ直す時 に、活用できる ようにさせる。	[知技①] 見学カードの記述 内容や発言内容か ら、「必要な情報を 集め、読み取り、 自然条件を生かし た農家の仕事の工 程や作業の様子に ついて理解してい るか」を評価す る。
	⑥⑦くふうがつま ったあまおうづ くり P. 48～49 農家の人は、 どのようなこと に気をつけてい るのでしょうか。 (2 時間)	○見学メモをもとに、農家の人が気をつけ ていることをカードにまとめる。 ・暖かい環境をつくるためにビニールハウ スを使っていた。 ・害虫を防いでくれる微生物を使うなど、 自然の力を生かして育てていた。 ○カードを見ながら、それぞれの仕事は何 のために行われているのか、話し合う。 ・たくさん売れる季節に合わせていちごを つくっていた。 ・安心して食べられるように、農薬はでき るだけ少なくしていた。 農家では、自然条件を生かしてあまおう をつくるほか、苗づくりや栽培設備にさ まざまな工夫をしている。また、ビニ ールハウス内で電照をしたり暖房をつけ たりすることで、冬でもたくさんのあま おうを収穫できるよう工夫している。 ⑥⑦	◆農家の人の仕事 で一番工夫して いると思ったこ とについてまと めさせる。 ◆農家の人の工夫 が、自分たちの 生活と関わって いることを意識 させる。	[知技①] カードの記述内容 や発言内容から、 「必要な情報を集 め、読み取り、農 家があまおうをた くさんつくるため に、栽培設備を工 夫するなどして仕 事をしている様子 を理解している か」を評価する。
	⑧いよいよしゅう かく P. 50～51 あまおうは、 どのようにして わたしたちのと ころへとどけら れるのでしょうか。 (1 時間)	○あまおうを収穫するときの工夫を話し合 う。 ・毎朝早くから、一つずつ手でとっていた。 ・食べるときにいちばん甘くなる熟れ具合 のものを選んでいた。 ○自分たちのところに届くまで、どのよう な人が関わっているか話し合う。 ・市場で店の人が値段をつけてあまおうを 買っていく。 ・市場で買われたあまおうは、新鮮なうち に、トラックで送られる。 あまおうの収穫は、朝早くから手作業で 行われている。収穫されたあまおうは、 市内だけでなく、近隣の市や他県や海外 にも送られている。 ⑧	◆見学の時に聞い たことや調べた ことを想起させ る。 ◆出荷先を地図帳 などで確認さ せ、他地域、海 外ともつながっ ていることを意 識させる。	[知技①] ノートの記述内容 や発言内容から、 「必要な情報を集 め、読み取り、あ まおうの出荷作業 の様子や出荷を通 じた他地域や外国 との関わりについ て理解している か」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
まとめる	⑨⑩あまおうのキャッチコピーを考える P. 52～53	○これまでの学習をもとに話し合い、学習問題についてまとめる。 ・たくさん売れる冬に、たくさん収穫できるように、くふうして暖かい環境をつくっていた。 ・あまおうが傷まないように、丁寧に作業していた。 ○これまでの学習を生かして、あまおうを宣伝するキャッチコピーを考え、宣伝シールにする。 ・まごころあまおう ・いちごがおいしく育つ福岡市	◆農家の人の仕事と自分たちの生活との関わりを意識するよう助言し、ノートにまとめさせる。 ◆まなび方コーナーを参考に、一番伝えたいことをなるべく短い言葉に整理させる。 ◆宣伝シールのひな形として、QRコンテンツ「まとめるワークシート」を活用する。	【知技②】 ノートの記述内容や発言内容から、「調べたことをまとめて、農家の仕事の手順や工夫、人々の生活とのかかわりを理解しているか」を評価する。 【思判表②】 宣伝シールの記述内容から、「農家の仕事の様子と人々の生活との関連について考え表現しているか」を評価する。
	これまでの学習をふり返り、あまおう農家の人が、どのようにくふうをしてあまおうをつくらしているのかまとめましょう。 (2 時間)	あまおう農家では、ビニールハウスなどの設備を使い、季節に合わせた育て方をするなど、おいしいあまおうをたくさんつくるためにさまざまな工夫をしている。また、つくられたあまおうは市の中央卸売市場から市内外の店に運ばれて販売され、地域の人々の生活と密接な関わりがある。 ⑨⑩		

2－①工場の仕事

10 時間／P. 54～65

目標

地域に見られる工場の仕事について、仕事の種類や産地の分布、仕事の工程などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、白地図などにまとめることで生産に携わっている人々の仕事の様子を捉え、地域の人々の生活との関連を考え、表現することを通して、工場の仕事は、地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①工場の仕事の種類や工場の分布、仕事の工程などについて見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、生産の仕事に携わっている人々の仕事の様子を理解している。	①工場の仕事の種類や工場の分布、仕事の工程などに着目して、問いを見いだし、生産に携わっている人々の仕事の様子について考え、表現している。	①地域に見られる生産の仕事について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを宣伝シールや文などにまとめ、生産の仕事は、地域の人々の生活と密接なかかわりをもって行われていることを理解している。	②工場の仕事の様子と地域の人々の生活との関連を考え、適切に表現している。	

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題を つかむ	①福岡市のおみやげ P. 54～55 わたしたちの市の工場では、どのようなものをつくっているのでしょうか。 (1 時間)	○自分たちの住んでいる市で作られているものを調べる。 ・明太子 ・まんじゅう ・とんこつラーメン ○工場の地図やグラフを見て、気づいたことを話し合う。 ・博多港のまわりに工場が多い。 ・食べ物や飲み物をつくる工場が多い。 わたしたちの住む福岡市には、さまざまなものをつくる工場があり、博多港の近くに多く分布している。また、特に、食べ物や飲み物をつくる工場が多い。 ①	◆おみやげ店の写真やパンフレットなどを参考に、調べさせる。 ◆前小単元の「市の様子」で学んだ内容を活用しながら、工場の分布を捉えさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を読み取り、市にある工場の種類や数、工場の分布など、市の工場の概要を理解しているか」を評価する。
	②③まちで人気の明太子 P. 56～57 明太子工場について、気づいたことやぎもん思ったことを話し合い、学習問題をつくりましょう。 (2 時間)	○明太子づくりについて、知りたいことを話し合い、学習問題をつくる。 ・工場で働いている人は何人くらいいるのかな。 ・明太子をつくる機械は、何台あるのだろう。 学習問題 工場ではたらく人たちは、名物の明太子をつくるために、どのような仕事をしているのでしょうか。 ○学習問題について予想し、学習計画を立てる。 ・明太子ができる順序を見てくる。 ・1 日につくる量を聞いてくる。	◆明太子づくりについて知りたいこと、疑問に思うことを自由に話し合わせる。 ◆「まなび方コーナー」を活用し、見学カードを作成させる。	[思判表①] ノートの記述内容や発言内容から、「明太子工場について、気づいたことや疑問に思ったことをもとに、明太子工場の仕事について、問いを見いだしているか」を評価する。 [態度①] ノートの記述内容や発言内容から、「市で明太子をつくる工場の仕事について、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。
	④⑤明太子ができるまで P. 58～59 明太子はどのようにつくられているのでしょうか。 (2 時間)	○見学カードをもとに、工場を見学する。 ・機械を使うだけでなく、人の手でしかできない仕事があった。 ・1 日に約 3 トンの明太子をつくると言っていた。 ・明太子の原料であるすけとうだらのたまごは、ロシアとアメリカでとれたものを使っている。 ・少ない人数でもつくれるように、新しい機械を使い始めた。 工場では、人の手と機械を有効に使って、流れ作業で明太子を作っている。 ④⑤	◆原料の仕入れ先を地図で確認させ、外国とのつながりに気づかせる。 ◆時代に合わせてつくり方が変わってきている点にも、着目させる。	[知技①] 見学カードの記述内容から、「必要な情報を集め、読み取り、工場の流れ作業の様子、原料を通した工場の他地域や外国との関わりについて理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	⑥⑦はたらく人が 気をつけている こと P. 60～61 明太子工場ではたらく人たちは、どのようなことに気をつけているのでしょうか。 (2 時間)	○工場で働いている人が気をつけていることをカードにまとめる。 ・明太子はやわらかいので、慎重に作業していた。 ・手を 35 秒かけて丁寧に洗うなど、衛生に気をつけていた。 ○カードを見ながら、それぞれの仕事は何のために行われているのかを話し合う。 ・温度に気をつけて、明太子の新鮮さを守っていた。 ・食べ物を扱っているから工場の中がいつも清潔になるようにしていた。 明太子を安全にたくさん作るために、工場で働く人たちは、温度管理や衛生面に気をつけながら仕事をしている。 ⑥⑦	◆機械を使う前と後では、作業がどのように変わったのかという点にも着目させる。 ◆工場ではたらく人の工夫が、自分たちがおいしく安全に食べられることにつながっていることを意識させる。	[知技①] 見学カードの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、工場で働く人の仕事の工夫について理解しているか」を評価する。
	⑧明太子はどこへ P. 62～63 明太子とわたしたちの地いきには、どのようなかわりがあるのでしょうか。 (1 時間)	○出来上がった明太子が、どこへ運ばれていくのかを調べる。 ・お店は、ほとんどが福岡県内にある。 ・電話やアプリで注文されたものは、宅配便で全国へ送られる。 ○明太子が、福岡の人たちに、どのように親しまれているのかを話し合う。 ・福岡市で明太子のつくり方が広まり、名物として親しまれるようになった。 ・市民が楽しめるイベントが開かれている。 工場で作られている明太子は、県内を中心とした販売店で売られている。商品開発をしたり、地域の文化や伝統工芸品などを紹介したりして、明太子を通して、福岡市のよさをたくさんの人に広めようとしている。 ⑧	◆P. 56 「たらこに使う金額ランキング」と関連させて、お店が福岡県内に多い理由を考えさせる。 ◆名物の明太子を中心に、文化や伝統工芸品なども紹介し、福岡市全体をアピールしている点も意識させる。	[知技①] ノートの記述内容から、「必要な情報を集め、読み取り、工場につくられた明太子は県内を中心とした販売店に送られていることや明太子を通して福岡市のよさを伝えようとしていることを理解しているか」を評価する。
まとめる	⑨⑩明太子のキャッチコピーを考える P. 64～65 これまでの学習をふり振り返り、明太子工場ではたらく人たちが、どのようなふうをして明太子をつくっているのかまとめましょう。 (2 時間)	○これまでの学習をもとに話し合い、学習問題についてまとめる。 ・温度の管理や衛生に気をつけて、愛情をこめて明太子をつくっていた。 ・たくさんの人に明太子を食べてもらえるように、新しい商品をつくっていた。 ○これまでの学習を生かして、明太子を宣伝するキャッチコピーの案を考え、宣伝シールにする。 ・あいじょうたっぷり明太子 ・福岡のでんとうをつたえる	◆工場で働く人の仕事と自分たちの生活との関わりを意識するよう助言し、ノートにまとめさせる。 ◆P. 53 のまなび方コーナーを参考に、いちばん伝えたいことをなるべく短い言葉に整理させる。 ◆宣伝シールのひな形として、QR コンテンツ「まとめるワークシート」を活用す	[知技②] ノートの記述内容や発言内容から、「調べたことをまとめて、工場の仕事の手順や工夫、市の人々の生活との関わりを理解しているか」を評価する。 [思判表②] 宣伝シールの記述内容から、「工場で働く人の仕事の様子と人々の生活との関連について考え表現しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
		明太子工場で働く人々は、明太子をたくさんの人に食べてもらうために、衛生面に気をつけ、さまざまな工夫をして仕事をしている。また、明太子は県内を中心に販売され、福岡市のお土産として知られているなど、地域の人々の生活と密接な関わりがある。 ⑨⑩	る。	

目標

地域に見られる販売の仕事について、消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなどに着目して、見学・調査をしたり地図などの資料で調べたりして、白地図などにまとめることで販売の仕事に携わっている人々の仕事の様子を捉え、それらの仕事に見られる工夫を考え、表現することを通して、販売の仕事は、消費者の多様な願いを踏まえ、売り上げを高めるよう、工夫して行われていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなどについて、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、販売に携わっている人々の仕事の様子を理解している。	①消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなどに着目して、問いを見だし、販売に携わっている人々の仕事の様子について考え、表現している。	①地域に見られる販売の仕事について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを白地図や文などにまとめ、販売の仕事は、消費者の多様な願いを踏まえ、売り上げを高めるよう、工夫して行われていることを理解している。	②地域に見られる販売の仕事と他地域の人々の生活との関連を考え、適切に表現している。	

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①よく買い物に行く店 P. 66～67 わたしたちは、どのようなところで買い物をしているのでしょうか。 (1 時間)	○普段、家の人と買い物に行く店について話し合う。 ・車に乗って大きなスーパーマーケットに行く。 ・商店街の八百屋さんやお肉屋さんに行く。 ・急な買い物はコンビニエンスストアに行く。 地域には、さまざまな種類のお店がある。① ・家の人によく行く店について質問する。 ○質問内容をカードにまとめる。	◆買い物に行く様子を想起させる。学習の導入として、QR コンテンツ「学習のはじめに見てみよう」を活用してもよい。 ◆地域にはさまざまな店があり、利用用途がそれぞれ違うことを話し合う。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「地域には、さまざまな種類の店があることを理解しているか」を評価する。
	②買い物調べ P. 68～69 家的人是、どのような店でよく買い物をするのでしょうか。 (1 時間)	○質問カードで聞いたことを白地図とグラフにまとめる。 ・家のまわりにはいろいろなお店がある。 ・商店街は駅の近くにある。 ・スーパーマーケットは家の近くにも離れたところにもある。 ・スーパーマーケットに行く人が多い。 ・商店街にも行っている。 利用する理由は店によって異なるが、家の人たちがよく利用するのはスーパーマーケットである。②	◆白地図にまとめ、地理的に学習したことを理解する。 ◆よく行く店についてグラフにまとめて、視覚的に捉えやすいようにする。	[知技①] 白地図などの内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、店により利用する理由が異なるが、スーパーマーケットをよく利用していることを理解しているか」を評価する。
	③④スーパーマーケットについて話し合う P. 70～71 スーパーマーケットについて気づいたことやぎもんに思ったことを話し合い、学習問題をつくりましょう。 (2 時間)	○スーパーマーケットについて、気づいたことや疑問に思ったことを話し合い、学習問題をつくる。 ・車で来る人のために駐車場がある。 ・スーパーマーケットで働いている人にはどのような仕事があるのか。 ・スーパーマーケットにはどのくらいの種類の品物があるのか。 学習問題 スーパーマーケットではたらく人は、たくさんのお客さんに来てもらうために、どのようにくふうをしているのでしょうか。	◆地域のスーパーマーケットについて質問カードや普段の買い物の経験をもとに話し合う。	[思判表①] ノートの記述内容や発言内容から、「気づいたことや疑問に思ったことをもとに、スーパーマーケットとそこで働く人の様子について問いを見いだしているか」を評価する。
		○学習問題について予想し、学習計画を立てる。 ・品物を見つけやすくするために、工夫していることがあるのではないか。 ・買い物がしやすいように、品物を置く場所を工夫していると思う。 ・たくさんのお客さんが来ることができるように駐車場を広くしている。	◆学習問題について予想をさせる。 ◆学習計画を立てる際には、調べることと、調べ方を整理する。	[態度①] ノートの記述内容や発言内容から、「スーパーマーケットの仕事について、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
調 べ る	⑤⑥スーパーマーケットの様子 P. 72～75 スーパーマーケットの売り場は、どのようになっているのでしょうか。 (2 時間)	○スーパーマーケットの見学に行く。もしくは、P. 73～74 を見て、気づいたことを話し合う。 〔見学の視点〕 ・売っているものとその種類 ・品物の見つけやすさ ・どのような品物が、どこに置いてあるか ・値段、紹介の書き方 ・働いている人の様子 スーパーマーケットでは、たくさんの商品が販売されている。また、たくさんの人たちが仕事をしている。 ⑤⑥	◆見学に行く際は、見学の視点を明確にしたり、インタビューする内容をあらかじめ決めたりしてから行くようにする。QRコンテンツ「スーパーマーケットではたらく人の仕事を調べよう」を使って、事前に予習することも効果的である。 ◆資料を見る際も、読み取る視点を明確にする。	[知技①] 見学メモやノートの記事内容から、「情報を集め、読み取り、スーパーマーケットの様子や働く人の様子について理解しているか」を評価する。
	⑦⑧品物はどこから P. 76～77 たくさんの品物は、どこから運ばれてくるのでしょうか。 (2 時間)	○スーパーマーケットで売られている品物の産地を調べ、他地域や外国との関わりについて話し合う。 ・お肉はアメリカ産と書いてあった。 ・わたしたちの住んでいる市や県以外からも運ばれてきている。 ○地図帳の日本地図や外国の地図を使い、産地に印をつける。 ・他地域から来た品物が、わたしたちの生活を支えている。 スーパーマーケットに並ぶ多くの品物は、国内だけではなく海外も含めた、他地域とのかかわりによって成り立っている。 ⑦⑧	◆看板、値札のシール、折り込みチラシや納品の段ボールなどから、児童が自分で産地を確かめられるようにする。 ◆地図帳を使って遠い地域から運ばれていることを確認させたい。 ◆国には国旗があることをおさえる。	[知技①] ノートの記事内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、品物を通したスーパーマーケットの他地域や外国とのかかわりについて理解しているか」を評価する。
	⑨⑩店ではたらく人 P. 78～79 スーパーマーケットでは、品物のならべ方や売り方をどのようにくふうしているのでしょうか。 (2 時間)	○スーパーマーケットで働いている人の話から、お客さんが買い物をしやすかったり、願いを叶えたりするために、どのような仕事をしているかを調べ、話し合う。 ・欲しいものがいつでも買えるように、種類ごとに並べ看板をつけている。 ・足りなくなった品物は注文していつでも質のよいものを売っている。 ・「お客さんの声」をよく聞くようにしている。 スーパーマーケットで働く人々は、商品の注文や陳列をしたり、商品を加工・包装したりするなど、さまざまな取り組みをして、お客さんがたくさん来るよう工夫している。 ⑨⑩	◆「売り場ではたらく西村さんの話」から仕事の内容を確認する。 ◆お客さんの声と仕事が結びついていることを読み取る。	[知技①] 見学メモやノートの記事内容から、「必要な情報を集め、読み取り、スーパーマーケットで働く人々は、お客さんの願いにこたえ、お店にたくさん来てもらうためにさまざまな販売の仕方の工夫をしていることを理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	⑪⑫お客さんのねがいをかなえるために P. 80～81 スーパーマーケットでは、そのほかにどのようなふうをしているのでしょうか。 (2 時間)	○品物や売り場の工夫のほかに、お客さんの願いをかなえるために、お店がどのような工夫をしているのかを話し合う。 ・大きな駐車場がある。 ・消費期限やつくった人の顔がわかるので安心。 ・アプリでポイントが貯められる。 スーパーマーケットで働く人々は、お客さんの多様なニーズに応えるためのさまざまなサービスをしており、それらの工夫が店の売上げを高めることにつながっている。 ⑪⑫	◆児童が当たり前に感じているサービスについて、視点がもてるようにする。 ◆コンビニエンスストアなどと比較するとわかりやすい。	【知技①】 見学メモやノートの記述内容から、「必要な情報を集め、読み取り、お客さんの願いを叶えることがスーパーマーケットの売上げを高めることにつながっていることを理解しているか」を評価する。
まとめる	⑬⑭調べたことを話し合い、新聞にまとめる P. 82～83 調べたことをもとに、スーパーマーケットではたらく人のくふうについてまとめましょう。 (2 時間)	○学習してきたことをふり振り返りながら、スーパーマーケット新聞にまとめる。 ・日本や世界のいろいろなところから品物が集められていた。 ・お客さんが買い物をしやすくするために工夫していた。 ・お客さんの願いを叶えるための工夫も色々あった。 ○お客さんの願いと、働く人の工夫の結びつきについて考える。 ・工夫することで、お客さんがたくさん来て、スーパーマーケットの売上げを高めることにつながっていた。 販売の仕事に携わる人々は、お客さんのさまざまな願いをふまえ、売上げを高める工夫や努力をしながら仕事をしている。 ⑬⑭	◆調べたことについて、その目的を児童同士でしっかり話し合いができるようにする。	【思判表②】 新聞の記述内容から、「消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国とのかかわりなどをもとに、販売の仕事の様子や工夫について考え表現しているか」を評価する。 【知技②】 新聞の記述内容から、「調べたことをまとめて、販売の仕事に携わる人々は、消費者の願いをふまえ、売上げを高める工夫をしていることを理解しているか」を評価する。
単元全体のいかす	①はたらく人とわたしたちとのつながり P. 86～87 わたしたちの生活と、さまざまな仕事のつながりについて考えてみましょう。 (1 時間)	○地域の生産と販売の仕事について話し合う。 ・つくる人は、おいしいものをたくさん食べてほしいと思っている。 ・売る人は、買いにくる地域の人のことを考えて売っている。 ・地域でつくられたものは、地域で売っていて、わたしたちが食べていた。 ・つくる人、売る人、買う人がみんなつながっていた。 地域にみられる生産の仕事や販売の仕事は、わたしたちの生活と身近なところにつながっている。 ①	◆地域の仕事という視点で、十分に話し合いをさせる。話し合いの中で、地域がつながっていることに気づかせるようにする。	【思判表】 カードやノートの記述内容から、「地域の生産や販売の仕事と地域における自分たちの生活とのつながりについて考え表現しているか」を評価する。

単元の導入（第3単元オリエンテーション）

1時間／P. 88～89

指導計画

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	くらしの安全を考えよう わたしたちの安全なくらしを守るはたらきについて考えてみましょう。 (1時間)	○新聞やテレビのニュース、自分の体験などを思い出しながら話し合い、安全なくらしをつくるためのしくみや人々の働きに関心をもたせる。 ・火事が起きたときには、消防署からたくさんの人が来て火を消している。 ・夜に警察の人たちが検問をしていた。 ・通学路で駐車違反の取り締まりをしているところを見た。 ・まちには、わたしたちの安全を守るために働いてくれる人がいるから安心して生活できている。 ----- 単元のめあて わたしたちの安全なくらしを守るために、まちでは、どこでどのような人たちがはたらいているのでしょうか。	◆教科書の写真などから、災害や事故・事件の現場で働いている人の姿に注目させる。	【態度】 発言内容やノートの記事内容から、「自分たちの生活をふり返り、地域の安全を守る人々の働きについて考えようとしているか」を評価する。

3-①火事からくらしを守る

8時間／P. 90～103

目標

火災から地域の人々の安全を守る働きについて、施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、まとめることで関係機関や地域の人々の諸活動を捉え、相互の関連や従事する人々の働きを考え、表現することを通して、消防署などの関係機関は、地域の安全を守るために、相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して火災の防止に努めていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や、学習したことを基に地域や自分自身の安全を守るために自分たちにできることなどを考えようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①施設・設備などの配置、消防署による緊急時への備えや対応などについて見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、関係機関や地域の人々の諸活動を理解している。	①施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、問いを見いだし、関係機関や地域の人々の諸活動について考え、表現している。	①地域の安全を守る働きについて、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを地図や文などにまとめ、関係機関が地域の人々と協力して火災の防止に努めていることを理解している。	②連携・協力している関係機関の働きを比較・分類、または結び付けて、相互の関連や従事する人々の働きを考えたり、学習したことをもとに地域や自分自身の安全を守るために自分たちにできることなどを考え、選択・判断したりして、適切に表現している。	

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①火事が起きたら P. 90～91 火事が起きたときのイラストを見て、気づいたことを話し合いましょう。 (1 時間)	○火事が起きたときのイラストを見て、気づいたことを話し合う。 [人] ・消防士 ・警察官 [仕事] ・消防士が、火を消している。 ・警察官が、交通整理をしている。 ・救急車で、けが人を運んでいる。 火事が起きると、消防士が現場に到着して消火活動を行い、さまざまな人々が協力して消火や救助の活動をしている。①	◆「まなびのポイント」を活用し、どのような人がどのような仕事をしているかを問いかけて観点をもたせるようにする。 ◆P. 90～91 の QR コンテンツも活用し、どのような人々が働いているか気づかせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を読み取り、火事が起きた際の関係機関の活動の様子について理解しているか」を評価する。
	②市内の消防しょ P. 92～93 しりょうから気づいたことを話し合い、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○地図やグラフを見て、気づいたことを話し合う。 ・火事の原因はいろいろある。 ○2 つのグラフを見て、火事の数の変化や原因について話し合い、学習問題をつくる。 ・119 番の電話から 60 秒で、消防自動車が出動している。 ・どうしてこんなに早くかけつけることができるのか。	◆自分たちの学校の近くの消防署はどこにあるか、地図で確認させる。	[思判表①] ノートの記述内容や発言内容から、「教科書のイラストやグラフをもとに緊急の対応などに着目し、問いを見いだしているか」を評価する。
		学習問題 火事から人々のくらしを守るために、だれが、どのようなはたらきをしているのでしょうか。	◆消防署の見学を計画する際には、QR コンテンツ「消防しょ見学カード」が活用できる。	[態度①] 学習計画表の内容や発言内容から、「火災から地域の安全を守る働きについて、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。
調べる	③消防しょへ行こう P. 94～95 消防しょの人たちはどのような取り組みをしているのでしょうか。 (1 時間)	○消防士の話を聞いたり、訓練の様子や道具などを観察したりして、わかったことを整理する。 ○「消防署ではたらく山田さんの話」から、火事からくらしを守る取り組みについてわかることを話し合う。 ・できるだけ早く火事の現場にかけつけ、確実に消火できるように訓練している。 ・器具を点検している。 ○消防署や消防士の写真などから、火事に備えてどのような準備をしているかを発表し合う。 ・消防自動車は、火事の場所や大きさによって違う。	◆P. 94 の「まなび方コーナー」をもとに、見学のしかたを確認させる。 ◆見学ができない場合には、QR コンテンツも活用しながら、教科書の記述や写真資料等を丁寧に読み取るようにする。特に、「何のために調べているのか」を問いながら、調べ	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、火事が起きた際の消防士の動きや日頃の備えについて理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
		消防署の人たちは、地域の安全を守るために、火事が起きたときに迅速に対応している。また、日頃から火事に対応するための訓練などを行い、緊急時に備えている。 ③	るねらいを明確にし、学習問題の解決に向かっていることを意識させる。 ◆消防署の人たちは、火事に備えて、さまざまな準備をしていることを気づかせる。	
	④通信指令室とさまざまな人々の はたらき P. 96～97 119 番に電話をかけると、どこにどのようなれんらくがいくのでしょうか。 (1 時間)	○火事が起きたときの連絡の流れについて、図から調べる。 ・消防署：消防自動車や救急車を出動させる。 ・ガス会社、電力会社、水道局：協力してもらう。 ○通信指令室の様子について、働く人の話から調べる。 ・関係機関への連絡をしている。 ・大きな火事の場合はほかの市や町にも応援を頼んでいる。 火事が起きたとき、さまざまな関係機関が、通信指令室を中心にネットワークを活用し、相互に連携して迅速に対処する体制をとっている。 ④	◆火事の現場で、どのような人たちが協力し合っているかを考えさせ、相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることを捉えられるようにする。 ◆通信指令室と関連機関の関わりについて調べる際、「どこへ」「何のために」連絡をするのかを問い、具体的な関連について明らかにさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、火事が起きた際の関係機関の連携について理解しているか」を評価する。
	⑤まちの中にある消防しせつをさがそう P. 98～99 わたしたちのまちには、どのような消防のためのしせつがあるのでしょうか。 (1 時間)	○地域にある消防施設を調査して地図に表したり、地図を見てわかったことや考えたことをもとに話し合ったりする。 ・まちには、消火栓や防火水槽があった。 ・消火栓や避難場所などは、地域に必ずつくるように決められている。 ・住宅には、火災報知器を取り付けることも決められている。 まちにはさまざまな消防施設が設置されており、火事などの災害が起きたときのために、避難場所も定められている。 ⑤	◆地域に出て消防施設を調査する際には、教科書の写真資料や「ことば」を事前に確認させる。 ◆なぜ、さまざまなところに消防施設があるかについて話し合い、緊急時に備えて工夫や努力をしていることに気づかせる。 ◆地域の人たちによる、火事からくらしを守る自主的な活動に目を向けさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、地域の消防施設の様子を理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	⑥地いきの消防団の取り組み P. 100～101 火事が起きたときや火事をふせぐために、わたしたちのまちではどのような取り組みが行われているのでしょうか。 (1 時間)	○消防団の訓練を見学したり消防団員に聞き取りをしたりして、消防団の取り組みについて話し合う。 ・倉庫にある器具を点検している。 ・消火などの訓練をしている。 ・火事、台風、地震などが起きたときに消防署の人たちと協力して、消火や救助の活動を行っている。 ・防火の呼びかけをしている。 ・普段は別の仕事をしている。 ・少年消防クラブに子どもたちが参加している。 消防団は、地域の人々が集まり、消防署と協力しながら火事に備えて訓練したり、防火を呼びかけたりしている。 ⑥	◆「ことば」をもとにして、消防士との違いを明らかにさせたり、消防団のねらいを明らかにさせたりする。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、消防団の活動の様子について理解しているか」を評価する。
ま と め る	⑦⑧火事からくらしを守る人々のはたらき P. 102～103 調べたことをもとに、火事からくらしを守るためのはたらきについて図にまとめましょう。 (2 時間)	○これまでに調べた、火事からくらしを守る人々の活動を図にまとめる。 ・消防士は、日頃から訓練をして、火事が起きたときのために備えている。 ・さまざまな人々が協力している。 ・消防団のように、地域の人々の働きも大切である。 ○「火事をふせぐためには、何ができるか」について話し合う。 ・消防団のさまざまな取り組みに参加する。 ・身のまわりでも、火事を防ぐためにさまざまなことに気をつけていくようにする。 火事から地域の人々の安全を守るために、消防署などの関係機関は相互に連携して、緊急時に対処する体制をとったり地域の人々と協力したりしながら火事の防止に努めている。 ⑦⑧	◆これまでの学習をふり返り、人に注目して、火事からくらしを守る働きについて考えさせる。 ◆地域のさまざまな関係機関は、相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、協力して火災の予防に努めていることに気づかせる。	[知技②] ノートや図の記述内容から、「調べたことをまとめて、関係機関が地域の人々と協力して火災の防止に努めていることを理解しているか」を評価する。 [思判表②] 図やノートの記述内容から、「連携・協力している関係機関の働きを比較・分類、または結び付けて、相互の関連や従事する人々の働きを考えたり、学習したことをもとに地域や自分自身の安全を守るために自分たちにできることなどを考えたりして、表現しているか」を評価する。

3-②事故や事件からくらしを守る

目標

事故や事件から地域の安全を守る働きについて、施設・設備などの配置、警察署による緊急時への備えや対応などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、まとめることで関係機関や地域の人々の諸活動を捉え、相互の関連や従事する人々の働きを考え、表現することを通して、警察署などの関係機関は、地域の安全を守るために、相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して事故の防止に努めていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や、学習したことをもとに地域や自分自身の安全を守るために自分たちにできることなどを考えようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①施設・設備などの配置、警察署による緊急時への備えや対応などについて見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、関係機関や地域の人々の諸活動を理解している。	①施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、問いを見出し、関係機関や地域の人々の諸活動について考え、表現している。	①地域の安全を守る働きについて、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを地図や文などにまとめ、関係機関が地域の人々と協力して事故などの防止に努めていることを理解している。	②連携・協力している関係機関の働きを比較・分類、または結び付けて、相互の関連や従事する人々の働きを考えたり、学習したことをもとに地域や自分自身の安全を守るために自分たちにできることなどを考え、選択・判断したりして、表現している。	②学習したことをもとに地域や自分自身の安全を守るために自分たちにできることなどを考えようとしている。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題を つかむ	①事故や事件の現場の様子 P. 104～105 事故や事件の現場の様子の写真やグラフを見て気づいたことを話し合い、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○身近な地域でどのような場所が危険いかを発表し合う。 ○グラフを見て、事故と事件の数が増えていることを確かめ、どうしてそのように変化しているかを話し合う。 ・事故と事件は、減ってきている。 ・事故と事件が減っているのは、いろいろな人の協力があつたからだ。	◆教科書の写真から、危険な場所を読み取らせ、その原因についても考えさせる。 ◆自分たちの学校の近くの交番はどこにあるかを地図で調べるようにする。 ◆身近な交番の警察官に注目させ、安全を守るための活動に関心をもたせる。	【思判表①】 ノートの記述内容や発言内容から、「事故や事件の数の変化やその背景などに着目し、問いを見いだしているか」を評価する。 【態度①】 発言内容や学習計画表の内容などから、「事故や事件などから地域の安全を守る働きについて、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。
		学習問題 事故や事件からわたしたちの安全を守るために、だれが、どのようなはたらきをしているのでしょうか。		
調べる	②事故が起きたら P. 106～107 なぜ、事故が起きたときに、さまざまな人がすぐに関わることができるのでしょうか。 (1 時間)	○交通事故現場で働く人のイラストから、事故がどのように処理されるかを発表し合う。 ・いろいろな人が協力している。 ・救急車や消防自動車も現場にかけつけている。 ・どうしてすぐに事故の現場にかけつけることができるのだろうか。 ○事故が起きたときの連絡の流れについて、イラストから調べる。 ・火事の時と同じように、連絡はまず通信指令室に届く。 ・連絡を受けた関係機関は、直ちに事故現場に向かっている。 事故が起きたとき、さまざまな関係機関が、通信指令室を中心としたネットワークを活用し、相互に連携して迅速に対処する体制をとっている。②	◆交通事故の現場で警察はどのような人たちと協力しているかを考えさせる。 P. 106～107 の QR コンテンツも活用したい。 ◆事故が起きたときには、どのような流れをたどって連絡が届き、事故の処理が行われているかを、「火事」の学習を想起させながら考えるようにする。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、事故が起きた際の関係機関の連携について理解しているか」を評価する。
	③けいさつの仕事 P. 108～109 けいさつの人たちは、みんなの安全を守るために、どのような取り組みをしているのでしょうか。 (1 時間)	○地域社会で見かける警察の仕事を調べる。 ・交通安全の呼びかけをしているパトカーを見たことがある。 ・交番では、警察官に道案内や落とし物の相談をしていた。 ○「交番の田谷さんの話」を読み、安全を守る取り組みについて話し合う。 ・交通事故を減らすためには、法やきまりを守ることが大切だ。 警察官は、地域の安全を守るために、地域社会の中でさまざまな活動をして事故などの緊急時に備えている。③	◆警察の仕事にはさまざまなものがあることを、人に注目させながら調べ、考えさせる。 ◆交番を見学できない場合は、QR コンテンツ「交番のけいさつさんの仕事」を視聴するとよい。 ◆安全な生活を守るために、自分	【知技①】 ノート（カード）の記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、警察官の活動の様子について理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
			たちができることとして、ルールやきまりを守ることが大切であるということに気づかせる。 ◆警察官のほかに、だれがまちの安全を守っているか考えさせる。	
	④地いきでの取り組み P.110～111 地いきでは、安全を守るために、どのようなことに取り組んでいるのでしょうか。 (1 時間)	○学校周辺における安全を守る活動について調べる。 ・登下校のとき、地域の人々がパトロールしているところを見たことがある。 ・こども 110 番のステッカーを見たことがある。 ○資料4「わたしたちのまちの安全を守るしくみ」から、地域の人々が安全を守る活動について話し合う。 ・地域の安全を守っているのは、警察だけでなく、お店の人や地域の人もいる。 こども 110 番の家の設置など、関係機関が地域の人々と協力して、地域の安全を守っている。また、地域の人々は、警察やPTA、市役所などと連携しながら安全なまちづくりに努めている。 ④	◆身近な地域の様子を思い浮かべながら話し合わせる。 ◆なぜ、さまざまなところで地域の人たちが活動しているかについて話し合い、事故や事件が起こらないように工夫や努力をしていることに気づかせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、まちの安全を守る地域の人々の活動について理解しているか」を評価する。
ま と め る	⑤⑥安全を守る人々のはたらき P.112～113 調べたことをもとに、事故や事件からくらしを守るためのはたらきについてまとめましょう。 (2 時間)	○これまでに調べた安全を守る人々の活動を、表にまとめる。 ・地域の人々は、協力して安全なまちづくりを進めている。 ・自分も協力できることがあったら、協力したいと思う。 事故や事件から地域の人々の安全を守るために、警察署などの関係機関は相互に連携して、緊急時に対処する体制をとったり地域の人々と協力したりしながら事故などの防止に努めている。 ⑤⑥	◆これまでの学習をふり振り返り、人に注目して、安全を守る仕事について考えさせる。 ◆安全なまちづくりを実現するために、警察の人が協力していることに気づかせる。 ◆話し合ったことをもとにして、緊急時への備えについて自分の考えを書くようにする。	[知技②] 表やノートへの記述内容から、「調べたことをまとめて、関係機関が地域の人々と協力して事故などの防止に努めていることを理解しているか」を評価する。 [思判表②] 表やノートへの記述内容から、「連携・協力している関係機関の働きを比較・分類、または結び付けて、相互の関連や従事する人々の働きを考えたり、学習したことをもとに地域や自分自身の安全を守るために自分たちにできることなどを考えたりして表現しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
単元全体のいかす	①自分たちにもできること P.114～115 わたしたちのくらしを守るために、自分たちにできることを考えてみましょう。 (2 時間)	○火事の原因や自転車の交通事故についての資料を見て、自分たちにもできることはなにか話し合う。 ・身近なものが原因で火事が起きている。 ・事故の被害を受けるだけではなく、事故を起こす立場になることもある。 ○わたしたちのくらしを守っていけるようにするための、標語をつくる。 ・「火の用心 主役はいつも わたしたち」 ・つくった標語は、みんなに伝えたい。	◆「まなび方コーナー」を参考にし、標語のつくり方を確認させる。 ◆つくった標語を、それぞれ比べてみて、くらしを守る意識を高めさせる。	【態度②】 作成した標語や発言内容から、「学習したことをもとに、地域や自分自身の安全を守るために自分たちにできることなどを考えようとしているか」を評価する。 【思判表②】 作成した標語や発言内容から、「消防署や警察署の働きについて学習したことをもとに地域や自分自身の安全を守るために自分たちにできることなどを考えたり、選択・判断したりして、標語に適切に表現しているか」を評価する。
		地域社会の一員として、地域社会の安全のために自分たちにもできることや日頃から心がけることを考えることが必要である。①		

単元の導入（第4単元オリエンテーション）

1時間／P. 116～117

指導計画

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	わたしたちのまちの、様子を見てみましょう。 (1 時間)	○教科書のイラストを読み取り、今と違うことや変わってきたことを話し合う。 [おじいさん・おばあさんが子どものころ] ・蒸気機関車が走っている。 ・今は見かけない形の車がある。 ・着物を着た人がいる。 ・田んぼが多い。 ・今と違って、港のあたりは砂浜が広がっている。 [お父さん・お母さんが子どものころ] ・新幹線が走っている。 ・道路が整備された。車の数も増えた。 ・高い建物が増えた。学校も大きくなった。 ・砂浜が埋め立てられた。 ・田んぼが減って、家が増えた。 [今] ・高い建物がさらに増えた。 ・駅や港の施設も大きくなった。 ・田んぼや畑はほとんどない。 ・まちの様子は大きく変わっているけれど、神社やお菓子屋さんのように、変わらず残っているところもある。 単元のめあて わたしたちのまちや人々のくらしは、どのようにかわってきたのか調べてみましょう。	◆イラストの中から、小単元の学習で着目する視点（交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具）などをそれぞれ意識して見つけさせる。その際、現在とどんなところが違うのか説明させるとよい。	[思判表] 発言内容やノートの記述内容から、「市や人々の生活の様子の時期による違いに着目して、問いを見出しているか」を評価する。

4－①市の様子と人々のくらしのうつりかわり

11 時間／P. 118～135

目標

市の様子の移り変わりについて、交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、関係者や地域の人などに聞き取り調査をしたり地図などの資料で調べたりして、年表などにまとめることで市や人々の生活の様子を捉え、それらの変化を考え、表現することを通して、市や人々の生活の様子は、時間の経過に伴い、移り変わってきたことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いについて、関係者や地域の人などに聞き取り調査をしたり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、市や人々の生活の様子を理解している。	①交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、問いを見いだし、市や人々の生活の様子について考え、表現している。	①市の様子の移り変わりについて、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったり、見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを年表や文などにまとめ、市や人々の生活の様子は、時間の経過に伴い、移り変わってきたことを理解している。	②駅や鉄道、公共施設ができたこと、人口が変化してきたこと、土地利用の様子や生活の道具が変わったことなどを相互に関連付けたり、市の様子の変化と人々の生活の様子の変化を結び付けたりして、市や人々の様子の変化を考え、適切に表現している。	②学習したことをもとに、これからの市の発展について考えようとしている。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題を つかむ	①かわってきた明 石のまち P. 118～119 駅前交差点のまわりはどの ようにかわってきたのでしょ うか。 (1 時間)	○「70 年前ごろの様子」「50 年前ごろの様 子」「今」の 3 枚の明石駅前の写真を比べ て気づいたことを発表する。 ・写真の色が違う。 ・道路が広くきれいになっている。 ・高い建物が増えてきている。 ・人力車から車に変わってきている。 ○資料写真や「近くに住むおばあさんの 話」から、戦争で被害にあったこと、み んなの力で新しいまちが復興したこと について知り、感想を話し合う。 戦争で空襲の被害を受けた明石のまちは、70 年前から今まで、いろいろと変わ ってきている。①	◆事前に身近な人 から、昔の様子 について聞いて くるように指示 しておく。 ◆明石駅前交差点 の 3 枚の写真をく らべながら、建 物や人々の様子 の変化に気づか せる。 ◆3 枚の写真から時 期の区分を意識 させる。	[思判表①] ノートの記述内容や 発言内容から、「交 通や公共施設、土地 利用や人口、生活の 道具などの時期によ る違いに着目して、 問いを見いだしてい るか」を評価する。
	②かわってきたわ たしたちの市 P. 120～121 市の様子のお つりかわりにつ いてぎもんに思 ったことを話し 合い、学習問題 をつくりましょ う。 (1 時間)	○「およそ 70 年前の明石市の土地の高さと 土地の使われ方」と「今の明石市の土地 の高さと土地の使われ方」の地図を比べ て、気づいたことや疑問に思ったことを 発表する。 ・家や店が多くなった。 ・土地が広がった。 ・鉄道が増え、大きな工場ができた。 ・いつごろからいろいろと変わってきたの だろうか。 ・人々のくらしはどのように変わってきた のだろうか。 ○疑問に思ったことをもとにして学習問題 をつくる。 学習問題 わたしたちの市は、どのようにうつりかわってきたのでしょうか。	◆各市区町村「市 の様子」の単元 と関連付けて学 習を進めて、昔 と今の違いにつ いて考えさせ る。 ◆時期によって市 の様子が違って いることに気づ かせ、市の移り 変わりに関心 をもたせる。	[態度①] 発言内容や学習計 画表の内容から、 「市の様子の移り 変わりについて、予 想や学習計画を立て、 学習問題を解決する 見通しをもっている か」を評価する。
調 べ る	③人口のうつりか わり P. 122～123 市の人口は、 どのようにかわ ってきたのでし ょうか。 (1 時間)	○市の人口の移り変わりのグラフを読み取 り、気づいたことや疑問に思ったことを 発表する。 ・市の人口は増えてきている。 ・なぜ人口が急に増えたのだろうか。 ○人口の変化と土地の移り変わりの資料か ら、人口が増えた理由について考えたこ とを話し合う。 ・人口の増加と土地の広がりには関係があ りそうだ。 ○最近の人口の変化についての資料や明石 の町の様子の写真資料から、わかったこ とや考えたことを話し合う。 ・お年寄りの人数が、平成になってから急 に増えている。	◆市の人口の変化 と土地の広がり に着目して、そ の関係について 考えさせる。 ◆「まなび方コー ナー」を活用 し、市役所の人 へのインタビュー のしかたを指 導する。	[知技①] ノートの記述内容や 発言内容から、「必 要な情報を集め、読 み取り、市の人口は 時間の経過に伴い、 移り変わってきたこ とを理解している か」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
		・外国の人の数も増えている。 ・まちの中に高層マンションができている。 明石市の人口は、昔から今に至るまで市町村の合併などの土地の広がりに合わせて増えており、最近では特に、お年寄りや外国の人の数が増加してきた。③		
	④道路や鉄道のうつりかわり P. 124～125 市の交通は、どのようにかわってきたのでしょうか。 (1 時間)	○「およそ 70 年前」「およそ 50 年前」「今」の 3 枚の鉄道や道路の地図を比べて交通が整備されてきた様子を調べる。 ・昭和の初め頃に道路や鉄道が整備された。 ・約 50 年前に高速道路や新幹線が開通した。 ○道路や鉄道の整備によってくらしはどの様に変わってきたのか、明石駅の移り変わりの写真資料やコミュニティバスの資料を見て話し合う。 ・大きな道路ができて車が通りやすくなった。 ・踏切がなくなって移動が便利になった。 ・鉄道が通っていない所にはコミュニティバスが通っている。 ・交通が便利になって人々が住む場所も増えた。 明石市の主な道路や鉄道などの交通網は、昔から今に至るまで計画的に整備されており、人々の生活も変わってきた。 ④	◆鉄道と道路のひろがりに着目して時間の経過に伴う生活の変化について考えさせる。 ◆鉄道や道路の変化と既習の P. 120～121「明石市の土地の高さと土地の使われ方」の 2 つの地図の変化を関連付けて考えさせる。 ◆鉄道だけでなくバスの路線にも着目させる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、市の交通の様子は時間の経過に伴い、移り変わってきたことを理解しているか」を評価する。
	⑤土地の使われ方のうつりかわり P. 126～127 市の土地の使われ方は、どのようにかわってきたのでしょうか。 (1 時間)	○「およそ 70 年前」「およそ 50 年前」「今」の土地の使われ方の地図を比べて気づいたことを話し合う。 ・70 年前は、田や畑が多かった。 ・50 年前から家や店が増えた。人工の島がつくられた。 ・今は、人工の島が工場になっている。 ○土地の使われ方の変化や明舞団地の写真からわかることについて話し合う。 ・家や店が増えたということは人口も増えた。 ・人口が増えたから団地がつくられたのではないか。 ・「市役所の藤本さんからの手紙」から埋め立て地には公園もあることがわかる。 明石市の土地利用の様子は、昔は田や畑が多かったが、埋め立て地や団地ができるなど昔から今に至るまで大きく変わってきた。 ⑤	◆3 枚の地図を「田や畑の多い所」「森林」「家や店の多い所」「大きな工場」「公園と緑の多い所」それぞれの観点で見比べて、その変容を読み取ることができるようにする。 ◆土地の使われ方と時間の経過に伴う生活の変化について考えさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、市の土地の使われ方は時間の経過に伴い、移り変わってきたことを理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	⑥公共しせつのうつりかわり P. 128～129 市の主な公共しせつは、どのようにかわってきたのでしょうか。 (1 時間)	○「およそ 70 年前」「およそ 50 年前」「今」の 3 枚の地図から学校の数や図書館の数を比べ、わかったことを話し合う。 ・学校の数や図書館の数は増えている。 ・移動図書館を見たことがある。 ○どのような公共施設がいつ頃できたのか調べてわかったことを話し合う。 ・明石市のシンボルである天文科学館はおよそ 70 年前にできた。 ・小学校にあるコミュニティ・センターは誰がどのようなことに使っているのだろう。 ・明石駅前の「あかし市民図書館」は 2017 年にできた。誰がお金を出してつくったのだろうか。 明石市の学校や図書館などの公共施設は、人々のくらしに役立つために昔から今に至るまで計画的に建設されており、税金を使って整備されている。 ⑥ ○今まで調べてきたことをふり返ってみよう。 ・市の人口や交通、土地利用などの変化について調べてきた。 ・およそ 70 年前、50 年前と時期によっていろいろ変わってきていることがわかる。 ・人々のくらしも変わってきている。 ・昔にくらべ、いろいろなことが便利になっている。 ・くらしの中で使う道具はどのように変わってきているのだろうか。	◆利用したところのある公共施設を想起させながら、その移り変わりについて関心をもたせる。 ◆「市の様子」で学習した公共施設の種類、場所、目的と関連付けて施設の移り変わりについて考えさせる。 ◆調べてきたことをふり返る時間を設け、さらに調べてみたいことはないか考えさせる。 ◆P. 116～117 をふり返り、くらしの様子がどのように変わってきたか考えさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、市の公共施設は時間の経過に伴い、移り変わってきたことを理解しているか」を評価する。 [態度①] ノートの記述内容や発言内容から、「市の様々な様子の移り変わりをふり返り、さらに調べるべきことを考え、くらしの様子の変化について調べる見通しをもっているか」を評価する。
	⑦⑧道具とくらしのうつりかわり P. 130～131 道具を通して、くらしはどのようにかわってきたのでしょうか。 (2 時間)	○昔と今の農作業の写真を見て、使われている道具の変化から気づいたことを話し合う。 ・昔は「かま」で稲刈りをしていた。今は機械化されている。 ・手作業は時間がかかる。 ○実際に地域の博物館へ行って、道具の移り変わりの様子を調べて、昔から今のかくらしの変化について考え話し合う。 ・あかりもいろいろと変わってきた。 ・ごはんも昔はかまどで炊いていた。 ・洗濯も手作業だった。 ・人の知恵や努力のおかげでくらしが便利になった。 ・博物館の人の話から、昔の道具にもよさがあることがわかった。 昔から今に至るまで、くらしをよりよくしようとする人々の願いによって道具はさまざまに工夫されて使われてきており、人々の生活も変わってきた。 ⑦⑧	◆農具、電灯、洗濯などの生活の道具の移り変わりに着目して、くらしの変化について考えさせる。 ◆QR コンテンツ「はくぶつ館の見学のしかた」を活用し、見学のかたを指導する。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、生活の道具は時間の経過に伴い、移り変わっており、人々の生活も変化したことを理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
まとめる	⑨⑩市のうつりかわりをまとめてみよう P. 132～133 市のうつりかわりについて調べてきたことを、年表にまとめてみましょう。 (2 時間)	○学習問題を確認した上で、これまで調べたことを一つの年表に整理する。 ・明石のまちの様子、人口、土地の使われ方、交通、公共施設、くらしの道具の観点で、調べてきたことを整理する。 ○年表を見ながら、時期ごとの変化についてわかったことを話し合う。 ・明石市はおおよそ 70 年前にまわりの市町村が一緒になって土地が広がり、人口も増えた。 ・およそ 50 年前に高速道路や新幹線が開通した。 ・くらしの道具が変化して、生活が便利になった。 ・明石市はこれからどのようなようになっていくのだろう。 市や人々の生活の様子は、交通網の整備や公共施設の建設、土地利用や人口の変化、生活で使う道具の改良など、時間の経過に伴い移り変わってきている。 ⑨⑩	◆小単元で使った「ことば」を生かしながら年表をまとめるように指示する。 ◆年表には、「70 年より前」も付け加えてまとめさせるが、くらしの移り変わりについては、3 つの時期「およそ 70 年前」「およそ 50 年前」「今」ごとの変化の傾向について考えさせる。 ◆QR コンテンツ「年表のつくり方」を活用し、年表の作成方法を指導する。	【知技②】 ノートや年表の記述内容から、「調べたことをまとめて、市や人々の生活の様子は、時間の経過に伴い、移り変わってきたことを理解しているか」を評価する。 【思判表②】 発言やノート、年表の記述内容から、「学習したことをもとに、人口や土地利用、交通や公共施設、生活の道具が変わったことを相互に関連付けたり、市の様子の変化と人々の生活の様子の変化を結び付けたりして、市や人々の様子の変化を考え表現しているか」を評価する。
	⑪市のはってんのために P. 134～135 わたしたちの市のこれからについて考えましょう。 (1 時間)	○市の発展のための取り組みについて調べる。 ・『明石市政 100 年記念誌』から「人にやさしいまちづくり」を目指していることがわかる。 ・広報誌から明石に住みたいという人が最近増えていることがわかる。 ○ホームページで調べたり、学習してきたことを生かしたりしながら、これからどのような明石市になっていくとよいのか話し合い、ポスターを作成する。 ・子どもやお年寄りにやさしいまちづくり ・天文科学館や明石城などの観光スポットを生かしたまちづくり ・明石焼きや鯛めしなど地元の料理を生かしたまちづくり 明石市の人々は、市の発展のためにさまざまな取り組みをしており、わたしたちも市の未来について考えていくことが大切である。 ⑪ ○作成したポスターを市役所の人に見せて、意見を聞く。	◆市の記念誌や広報誌などを手がかりに、市の発展のための取り組みについて調べさせる。 ◆今まで学習した教科書の資料やノートの記述などを見直させて、これからの市の発展について考えるように助言する。 ◆「まなび方コーナー」を活用し、市のホームページから検索して調べるよう指導する。 ◆事前に市役所の広報課等と連絡を取っておき、児童の作品を紹介し、コメントをもらうようにしておくと、より主体的な学習ができる。	【態度②】 発言内容やポスターの内容から、「学習したことをもとに、これからの市の発展について考えようとしているか」を評価する。
いかす				